

---

# スピード探偵姫宮ヤヒコ！

殿雌カシコ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

スピード探偵姫宮ヤヒコ！

### 【Nコード】

N3059E

### 【作者名】

殿雌カシコ

### 【あらすじ】

どんな事件も千文字以内でズバッと解決！それがスピード探偵姫宮ヤヒコ！べ、別に手抜きなんかじゃないんだからね！

「というわけで犯人はお前だ」  
ピシッと指を突き立て、お得意の「犯人はあんたなんだからね！」のポーズ。彼女こそ噂の名探偵姫宮ヤヒコ。またの名をスピード探偵姫宮。

彼女は今まさに、その名に恥じぬ難事件のスピード解決を成し遂げようとしていた。

彼女の指の先には一人の青年が白々しくも

「何事？」って顔で突っ立っている。

「は？ちよつ、待って！犯人って…俺！？てかこれ何の事件！？」  
実に白々しいとぼけ方である。しかし姫宮ヤヒコはその問いに丁寧に答えを返す。

「連続下着泥棒殺人事件」

「連続下着泥棒殺人事件！？」

青年はその言葉に思わず、声をあげた。明らかに、彼は動揺している。その反応だけでこの青年が犯人であるということを立証出来てしまうほどに。しかし姫宮ヤヒコは焦らない。じつくりと、しかしスピーディーに犯人を追い詰める。

「下着は女の命だ。それを盗んだ犯人は命を奪う殺人犯も同然。違つかい？」

彼女の言葉が核心を突く。

「や、違つだろっ！下着が女の命とか聞いたことねえよ！だいたい下着泥棒殺人事件じゃ泥棒が殺されたみたいだし…」

彼はそのことで一種のパニック状態に陥つた。もはや彼の言うことは支離滅裂。全く道理にそぐわない。額からは汗が噴き出し、目は血走っている。

その姿はあまりにも哀れで、姫宮ヤヒコは顔を背けたい気持ちで一杯になった。しかし、これが彼女の仕事だ。

姫宮ヤヒコは往生際の悪いその青年を怒鳴りつけた。

「そんなことはどうでもいい！」

「ええええええ！？」

彼は心底驚いた顔で姫宮ヤヒコを見た。こんな風に彼を叱ってくれる人物がいなかったためだろう。そしてそれこそが彼にこのおぞましい犯行を行わせた原因であることを姫宮ヤヒコは見抜いていた。

「さあ、さつさと白状したまえ。「私がいりました」と。そうすれば今回は罰金という形で許してやらんこともない！」

「あんた何様！？」

街には犯人の悲痛な叫び声だけが虚しく響いていた…

こうして事件は無事スピード解決し、姫宮ヤヒコは今回も一人の憐

れなる罪人を修羅の道から法の下へと導いた。

しかし、この世に人がいる限り彼女に安息の日々は訪れない。何故なら人間は生まれついで悲しき罪人なのだから…

「とりあえず十万円よこすんだ。いや、貸してください、返すから」

「ただのタカリかよ！」

(後書き)

相変わらずのへたっぴな文章ですが、こんなんでも感想なんかも  
えると非常に有り難いです。あと只今連載中の「七人の小人少女」  
もよろしくお願いします> ( | | ) <

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3059e/>

---

スピード探偵姫宮ヤヒコ！

2010年10月27日23時41分発行